名古屋芸大グループ通信

37
October
2016

BORDERLESS

Feature

新"芸術学部"芸術学科に新しいコースが誕生

Close up! NUA-ism
～進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-OG
学生時代よりも濃厚な時間
水上茉沙美

NUA-Student
美術学部
アートクリエイターコース 彫刻 3年
木下千穂

News/Topics
ニュース&トピックス

音楽学部
■ 特別客員教授野々田万照氏による ジャズポップスコース公開講座
■ 第18回　ピアノサマーコンサートを開催しました

人間発達学部
■ オープンキャンパスを開催しました

美術学部・デザイン学部
■ 美術領域・デザイン領域・芸術教養領域のオープンキャンパスを開催しました
■ 官学連携活動
北名古屋市×名古屋芸術大学 市制10周年記念 ナンバープレートデザインコンペの最終審査が行われ、デザイン案が決定されました
■「みんなが芸大生になる日 一日芸大生」を開催しました

名古屋芸大グループ校特集
■ たきこ幼児園

コラムNUA
言葉を受けとめる ―関係・教育の基層の方へ―
美術学部教養部会 教授　小西二郎

Master Artist
マスターアーティスト
この先へと
デザイン学部 准教授　則武輝彦

Information
インフォメーション
■ 出版
■ 2016年度オープンキャンパス日程
■ 2016年度音楽学部演奏会スケジュール（予定）
■ アート&デザインセンター 2016年度展覧会スケジュール（予定）

つなぐ力

芸術×教養＝新しい発想

リベラルアーツコース

「興味」が「教養」になる

伝える力

文芸・ライティングコース

文学研究ではなく"創作"

文章は技術

NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS
名古屋芸術大学グループ
http://www.nua.ac.jp

■名古屋芸術大学／大学院：音楽研究科　美術研究科　デザイン研究科　人間発達学研究科
学部：音楽学部　美術学部　デザイン学部　人間発達学部
■名古屋芸術大学保育専門学校
■名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園
■滝子幼稚園　■たきこ幼児園
■名古屋音楽学校（名古屋芸術大学 栄 サテライト）

伝える力

文学研究ではなく
〝創作〟
文章は技術

文芸・ライティングコース

〈音楽が趣味だけどミュージシャンになるほどには……
アートは好きだけど絵を描いたり何かを作ることはちょっと……〉
〈ラノベを読んだりアドベンチャーゲームが好きで自分でも書いてみたい！
いや、とにかく「文章で飯を食う」という人生を送りたい！〉
こんな人にこそ知って欲しい新しい2つのコースなのです。

〝新〟芸術学部 芸術学科に新しいコースが誕生

BORDERLESS

2017年度（平成29年度）、本学は大きな学部改編を行います。音楽学部、美術学部、デザイン学部の3学部4学科を統合し、新たに芸術学部芸術学科を設置、1学部1学科、4つの専門領域へと改編することは、これまでお伝えしてきたとおり。そしてこの改編に伴い、本学にこれまでになかった新しい2つのコースが誕生します。新しい専門領域である芸術教養領域に「リベラルアーツコース」、デザイン領域に文章力と表現力を学ぶ「文芸・ライティングコース」を設置します。今回の特集では、新設コースのキーパーソンに、どんなことを学ぶのか、どんなことを目指すのか、卒業後の進路について、などを伺いました。

つなぐ力

芸術 × 教養 ＝
新しい発想
「興味」が「教養」になる

リベラルアーツコース

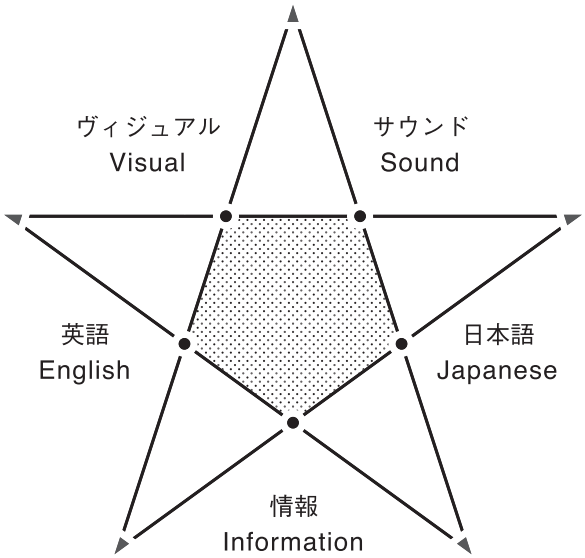
つなぐ力 リベラルアーツコース

「興味」が「教養」になる

▶キーワード

芸術 × 教養 ＝ 新しい発想

▶どんなことが学べるか



※1 リベラルアーツを支える5つのリテラシー

さらにゲストを招いての特別講義（4年間で30人）
異文化体験、海外研修、レビュー、プロジェクト

▶どんな人になれる？

- アートを理解し豊かな発想力を持った人
- 言語と情報のスキルの高いコミュニケーション力のある人
- 企業や組織の中で芸術文化の架け橋を築く人

▶想定される就職先

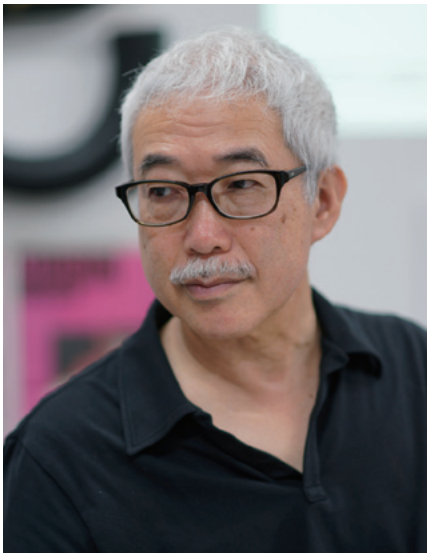
一般企業の企画・広報担当や総合職、代理店、IT関係、コミュニケーター、プロジェクトコーディネーター、シンクタンク、コンサルタントなど

▶講師インタビュー

茂登山清文 デザイン学部教授

「電子ネットワーク社会におけるコミュニケーション」をテーマとして、ヴィジュアルリテラシーを中心に、ひろく視覚文化について研究

1951年　神奈川県生まれ
1974年　京都大学工学部建築学科卒業
1981-82年　パリ第6建築大学（現ラ・ヴィレット建築大学）留学
1983年　京都大学工学研究科建築学専攻博士課程満期退学
1984年　名古屋芸術大学美術学部講師をへて助教授
1998年　名古屋大学大学院人間情報学研究科助教授
2003年　同情報科学研究科・情報文化学部准教授をへて教授
名古屋大学では、文理融合系の大学院・学部で教えるとともに、教養教育において芸術系授業のコーディネート、ギャラリー運営をおこなってきた
2016年より現職
主な著書に『可視化の図学』（共著）、『情報デザインベイシクス』（共著）など



–最近では、デザインを重視した商品が増えたり、あいちトリエンナーレやアートによる町おこしなど、企業や社会でアートの果たす役割が増えて来ているように感じます。リベラルアーツコースでは、社会とアートをつなぐ役割について学ぶことができると考えていいですか？

全般的なことを満遍なくとはいわないですが、今の社会で求められている知見と技術、そして思考力を教えていこうと考えています。日本の総合大学で芸術分野を教えているのは日本大学くらいしかありませんし、逆に芸術大学で総合的な「教養」を学ぶことのできる大学はごくわずかしかありません。リベラルアーツコースは、芸術大学の中に「社会」を招き入れて、複眼的なものの見方やコミュニケーションの力をつけるようにしていこうと考えています。

–どんなカリキュラムになりますか？

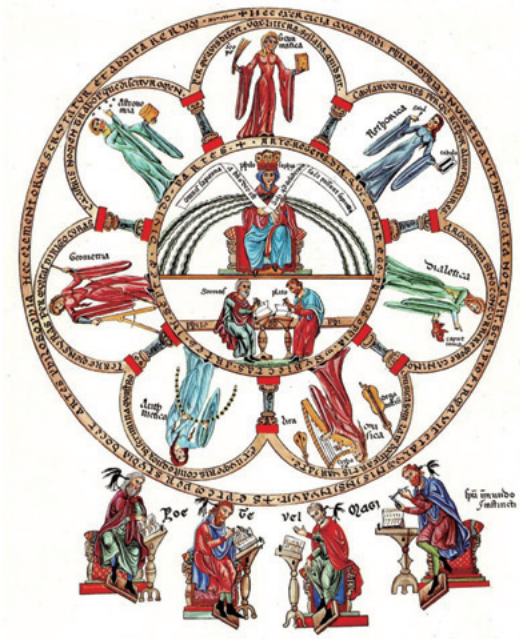
具体的にはここにある※1 5つのリテラシーです。視聴覚（ヴィジュアル、サウンド）に加え、コミュニケーションに不可欠な言語、それから情報です。特に、図の下側の、日本語、英語、情報の3つは、現代、生きていく上で必須ではないかと思っています。この中でも、特に重要なのが日本語ですね。名古屋芸大の学生は、感覚的には優れていると思いますが、普通にコミュニケートするような喋りが得意じゃない学生がいます。人によっては文字を見るとお腹が痛くなるというような学生もいます。ちょっとしたレポートを書かせるのも大変で、可愛そうだなと思う時があります。作り手ならばそういう人もいるかなと思いますが、リベラルアーツではコミュニケートできるようにすることを大切に考えています。

茶谷薫
担当科目:「異文化体験」「セミナー」「卒業研究」

マクガイア・スティーブ
担当科目:「英語プレゼンテーション」

中村登志哉
担当科目:「国際社会論」

山田珠実
担当科目:「身体と言葉の表現」



Philosophia et septem artes liberales Herrad von Landsberg - Hortus Deliciarum, 12 c.

「リベラルアーツ」という言葉は、古代ギリシャに起源を持ち、「人を自由にする学問」を意味します。自由人たる人が持つ必要のある学問として、文法学・修辞学・論理学の3学と、算術・幾何・天文学・音楽の4科を合わせた自由七科を基本とし、自由七科を統治する学問として哲学が位置づけられていました。この理念を現在社会と芸術に置き換えたのがリベラルアーツコース。芸術を理解するジェネラリストのための教養を身につけます。

その時に、ヴィジュアルやサウンドを活用することも大いに有効ですよね。

–どうやって授業はすすめていくことになるのですか？

リテラシーでは、それぞれ個別にツー・ステップ、そしてその後にそれらを融合させた授業と、合計三段階の演習・実技を組んでいます。

「ヴィジュアル」の授業では、はじめに写真を使いながら、ふだん気づかないことを発見し、それらを観ることの楽しさを知ってもらいます。その次の段階として刷り物や映像の基本的な技術をしっかりと学びますが、これは社会では必須ですね。さらに音やプログラミングとクロスさせながら、より高度な表現も身につけていきます。

「情報」では、全学共通の「情報メディア演習」に加え、コミュニケーションの基礎となるプレゼンテーションと大判のポスター制作をおこないます。それらは、企業や組織のなかでアイデアをまとめ、伝えるための重要な手段です。ウェブ作成やSNSの活用、それにネットワークを利用するにあたってのポイントも学びます。

2年次、3年次の夏には、全員が参加してレビューをおこないます。これは私が以前いた時に始まったデザイン領域のものも参考にしているのですが、作品を並べるのではなく、一年間の調査や研究の成果を、ポスターとスライドを使いながらプレゼンします。オーディエンスとのやり取りのなかで、フィードバックを得ながらコミュニケーションしていくのです。

最後は、これまで習得してきた基礎をベースに、少人数ゼミやプロジェクト型の授業を行い、スキルの向上と、発想する力、人やものをコーディネイトする力を伸ばします。そうしたことを経験する中で、自分が取り組むテーマを見つけ卒業論文をまとめる。これが4年間のカリキュラムですが、最終的なテーマは、それこそ自由な発想でユニークなことや人と違うことやってくれればいいなと考えています。

–どんなスタッフが担当するのですか？

私と言語学の早川先生、人類学の茶谷先生、それにメディアの津田先生がコアとなり、他に英語ネイティブの先生たちや、情報や心理学など、名芸大の多彩なスタッフが加わっています。

外部からの講師として、まず名古屋大学を始めとする先生たちに来ていただきます。知の最先端を担う学者たちの、興味深い講義に大いに期待してください。次に、地域や社会という現場で、文化の役割や経済との関係を視野に入れて活躍している実践家たちがいます。そして、ヴィジュアルやサウンド、情報では、若いクリエーターたちが刺激にみちた授業を展開してくれるはずです。

–茂登山先生は、これまで名古屋大学で一般大学に「芸術」を持ち込むということをされていました。そこではどんなことがありましたか？

芸術とはあまり縁のなかった学生たちですが、芸術への関心の高さを実感しました。必修ではなかった芸術科目を全学生の1/3程が履修し、芸術科目は人気の授業になりました。芸術が社会に求められているという事実に、大学が上手く応えられていないということではないかと思います。名古屋大学の学生は、名古屋芸大の学生にくらべ芸術的な素養は低く、趣味の延長のような軽い気持ちで履修する学生が多いのですが、やっていくうちにだんだんとわかっていき、高度な考え方へと変わっていきました。そのことに大きな手応えを感じました。今回、名古屋芸大で行うことはその逆で、社会のことをいろいろ考えている人たちを大学に入れて、大学の中に小さいけれども社会を作りだし、それと芸術家たちが接することでいい効果が生まれるのではないかと期待しています。今回、リベラルアーツコースでは、名古屋大学で力になっていただいた先生方にも多く協力いただいています。先生方も、学生たちとつながりが濃くなりそうで楽しみだ、と話しています。

哲学者

戸田山 和久

特別客員教授就任予定

現在、名古屋大学教養教育院院長・情報文化学部教授を務める。科学哲学を専門とする哲学研究の第一人者。『論文の教室』『知識の哲学』『哲学入門』『「科学的思考」のレッスン』ほか著書多数。

「今の自分の欲求とは違うようだけど、自分の外に厳然としてある」尺度を哲学では「真善美」と呼んできました。科学でも美術でも、人はそんな尺度をわかりたくて勉強します。自分のちっぽけな好みとか欲求とは別の尺度がこの世にあると知っていることは、とても重要です。自分で美しいものを生み出すのも素晴らしいですが、人が生み出した美しいものをきちんと評価し、守り伝えていく活動をサポートすることは、同じくらい大切です。

津田佳紀
担当科目:「情報と芸術」「プロジェクト」

秋庭史典
担当科目:「芸術と科学」

加藤智也
担当科目:「情報リテラシー」

原田裕貴
担当科目:「サウンドリテラシー」

言語(英語)リテラシー

早川 知江

准教授(言語学)

学生が気軽に研究室を訪れられるよう、卒業生の作品を壁に飾ったり、居心地のよい雰囲気作りを工夫中。「いつでもウェルカムです」

サウンドリテラシー

日栄 一真

非常勤講師(サウンドアート)

大学で教鞭を取りながら、サウンドアーティストとして展示会・イベント等で活躍中。クラブDJの顔も。「楽しむため、いろんな経験をして欲しい」

情報リテラシー

遠藤 麻里

非常勤講師(情報デザイン)

情報文化を学び建築家として活動した後、再び大学院へ。情報技術の力を使い、街のデザインを良くするのが目標。「失敗してもいい、まずやってみて!」

伊藤優子
担当科目:「芸術と社会」

古池嘉和
担当科目:「文化と経済」

竹内創
担当科目:「メディア論」

酒井健宏
担当科目:「ムービー制作」

古橋敬一
担当科目:「地域文化論」

加藤聡一
担当科目:「現代文化と思想」

高橋知世
担当科目:「社会調査法」

久木田水生
担当科目:「論理的思考」

入試情報

AO入試	
試験日	9月11日(日)(終了)
超領域入試	
試験日	10月15日(土)(終了)
自己推薦入試	
試験日	12月17日(土)
一般入試	
A日程 一般入試型　センタープラス型　センター利用型	
試験日	2月6日(月)
B日程 英語外部試験型　センタープラス型　センター利用型	
試験日	3月25日(土)

4年間のカリキュラム

	領域科目	
	演習・実技	講義
1	●ヴィジュアルリテラシー1 ●サウンドリテラシー1 ●異文化体験 ●海外研修	●教養と現代1 ●視覚文化 ●人類生存のための教養
	●ヴィジュアルリテラシー2 ●サウンドリテラシー2 ●日本語リテラシー1 ●情報リテラシー1	●教養と現代2 ●サウンド文化
2	●プロジェクト1 ●英語リテラシー1 ●日本語リテラシー2 ●芸術教養レビュー1	●教養と地域文化1/2 ●地域文化論 ●国際社会論
	●プロジェクト2 ●英語リテラシー2 ●情報リテラシー2	●教養文化と職業1/2 ●コミュニティ論 ●マーケティング ●情報と芸術 ●論理的思考
3	●セミナー1 ●ムービー制作 ●英語プレゼンテーション ●身体と言葉の表現 ●芸術教養レビュー2	●社会情報論 ●社会調査法 ●芸術と社会 ●芸術と科学 ●現代文化と思想
	●セミナー2 ●インターメディア表現 ●ビジュアルプログラミング	●メディア論 ●テクスト文化 ●芸術の記号論 ●文化と経済
4	●セミナー3	
	●卒業研究	

伝える力

文芸・ライティングコース

文学研究ではなく"創作"文章は技術

▶キーワード

プロとして活躍できる文章スキルを身につける

▶どんなことが学べるか

小説、演劇（戯曲）、映画（シナリオ）、キャッチコピー、
絵本作家、漫画原作者などの文章表現を磨く
実作を中心に少人数制でやさしく細やかに指導
作品を編集、本を作成してレビュー展

▶どんな人になれる？

- 文章のプロ、職人
- 伝えたい心や、表現したい思想を文章デザインできる人
- 文章で人を楽しませる、感動させられる人

▶想定される職業

小説家、劇作家、シナリオライター、絵本作家、漫画原作者、
コピーライター、翻訳家、新聞記者、雑誌記者、編集者、
文学館の学芸員など

▶講師インタビュー

荻原雄一　デザイン学部教授

日本近代現代文学（森鴎外、夏目漱石、芥川龍之介、倉橋由美子、丸山健二、野呂邦暢）、映画表現法、サンタクロース学などを研究

学習院大学文学部国文学科・埼玉大学教養学部
アメリカ研究コース卒業
学習院大学大学院修了
小説家、翻訳家
俳優座特別研究員、東京作家倶楽部所属

著作
「バネ仕掛けの夢想」（味爽社1978・教育出版センター1981）
「魂極る」（オレンジ・ポコ1983）
「文学の危機」（高文堂出版社1985）
「消えたモーテル・ジャック」（立風書房1986）
「楽園の腐ったリンゴ」（立風書房1988）
「ゴーギャンへの誘惑」（高文堂出版社1900）
「小説　鴎外の恋　永遠の今」（立風書房1991／森の会公演1993・俳優座公演2002／ＮＨＫ放映1993・1995）
「北京のスカート」（高文堂出版社1995）
「サンタクロース学入門」（高文堂出版社1997）
「児童文学におけるサンタクロースの研究」（高文堂出版1998）
「もうひとつの憂国」（夏目書房2000）
「サンタクロース学」（夏目書房2001）
「舞姫ーエリス、ユダヤ人論」（至文堂2001・編著）
「ニューヨークは泣かない」（夏目書房2004・のべる出版2008）
「靖国炎上」（夏目書房2006）
「サンタ・マニア」（のべる出版2008）
「マリアナ・バケーション」（未知谷2009）
「漱石の初恋」（未知谷2015）
「"漱石の初恋"を探して—「井上眼科の少女」とは誰か」（未知谷2016）

–デザイン学部に「文芸・ライティングコース」が設置される意味を教えて下さい

そもそも文芸の創作を教えている大学は数多くありません。一般大学の文学部は文学研究で、創作は教えてはいません。と言って、芸術大学に文芸がある大学も、非常に少ないのが現状です。東海地区では名古屋芸大の文芸・ライティングコースが唯一です。芥川龍之介になると言うと大げさですが、最近では、ケータイ小説やライトノベルの投稿サイト、ゲームのシナリオなど、物語を書く作業が従来よりも何げなく行われている現状があります。インターネットで作品を発表したり、同人誌を作ることも気軽にできるようになりました。このような現在の状況だからこそ、芸術大学で文芸の技術をしっかりと教えていく必要があり、またニーズもあると考えています。確かな技術を習得し、文章をデザインする。芸大の他の領域と連携することができる。このためデザイン領域に文芸・ライティングコースを設置したのです。

–文芸・ライティングコースの特色はなんですか？

僕は小説が専門ですが、戯曲、シナリオ、演出にも力を入れていきます。劇作家、演出家の北村想さんに来ていただき、授業を行って戴きます。小説と演劇を二本の柱と考えています。僕は、森鴎外のことを書いた「鴎外の恋」を俳優座で講演してから、俳優座とお付き合いが始まりそこの特別研究員になっています。劇団員の俳優さんに来ていただき朗読会などを開催するつもりです。東海地区で

北村想 特別客員教授

演出家、劇作家、小説家、エッセイスト
これまでの執筆戯曲は200曲をこえる。代表作に『寿歌』『想稿　銀河鉄道の夜』など。戯曲だけでなく、小説、童話、エッセイ、シナリオ、ラジオドラマなどその著述物は多数。『十一人の少年』で第28回岸田國士戯曲賞、『雪をわたって･･･第二稿・月のあかるさ』で第24回紀伊國屋演劇賞、ラジオ・ドラマ『ケンジ・地球ステーションの旅』でギャラクシー賞を、平成26年には『グッドバイ』で第17回鶴屋南北戯曲賞を受賞

西村和泉 准教授

翻訳家、演劇評論家
主な著書および翻訳書　『ベケットを見る八つの方法―批評のボーダレス』『ベケット―果てしなき欲望』『レイモン・アロンとの対話（叢書言語の政治）』『サミュエル・ベケット!―これからの批評』

演劇に力を入れている大学はありませんので、演劇に興味のある人にはうってつけです。

－授業ではどんなことをやるのですか？

技術を教えます。じつは、北村想さんとも意見が一致しているのですが、ともかく技術を教える、内容については触れない、という方針でやっていきます。北村さんは、毎年10人程度しか取らない「伊丹想流私塾」という塾を開いていますが、そこで彼は徹底して技術を教えています。

僕は、若い頃に小説家の丸山健二氏（1966年『夏の流れ』で第56回芥川賞を最年少で受賞。この最年少記録は2004年の綿矢りさが受賞するまで破られなかった。受賞後、長野県へ移住。以降数々の作品が賞の候補作となるが辞退、「孤高の作家」と呼ばれている）に小説の書き方を教わりました。そのときに、小説や戯曲を評価するには内容が50点、技術が50点の100点満点で行うと。たとえば、ある作品の内容が50点満点の面白さだったとしましょう。しかし、文章の技術は20点の評価だったとします。それでも、合計で70点ですから、水準を超えています。内容が時代に合っていれば本が売れますから、出版社は新人賞を与えます。しかし、二作目は処女作と同じ内容というわけにはいきません。一作目と同じ程度の面白いテーマはそうは転がっていません。二作目の内容が20点だったとすると、この作家の技術は20点ですから、合計で40点にしかなりません。これでは本にならない。賞を取ってから鳴かず飛ばずの作家は、このパターンです。僕が、丸山健二氏からうるさくいわれた教訓は、技術は覚えれば50点が取れるようになる、50点が取れるようになれば、一生50点満点であり、内容が20点しかなくても70点で合格だと。読んだ人も金を返せとは言わない。これがプロなんだと。僕も、作家としてやってきましたが本当にそう思います。ですから、技術を教えるというのは、4年間で技術を50点にして送り出すという意味です。ともかく技術については、イロハからすべてを教えるつもりです。北村想さんも想流私塾で、全く同じ授業をやっているそうです。やる気のある人にとにかく技術を教えて、まずは少数でも作家としてやっていける人を作ろうと考えています。

－実際のカリキュラムは？

デザイン領域の中にあるので、キャッチコピーにも力を入れて教えていきます。ポスターを作っているようなグラフィックデザインの分野とマッチングできるし、絵本もやります。美術やデザインのコースとすぐに連携できると考えています。また、東キャンパスの音楽領域とも、ミュージカルの台本や舞台の作り方で連携できると考えています。

入試情報

AO入試	
体験授業	7月23日（土）、30日（土）（終了）
在宅課題発表と面談	8月27日（土）（終了）
超領域入試	
試験日	10月15日（土）（終了）
推薦入試	
試験日	11月6日（日）
地域自己推薦入試	
浜松・金沢会場 試験日	12月3日（土）
高知・長崎・沖縄会場 試験日	12月10日（土）
自己推薦入試	
試験日	12月17日（土）
一般入試	
A日程	
試験日	2月5日（日）・6日（月）
B日程	
試験日	3月24日（金）

4年間のカリキュラム

1 序	文芸実技	I-1（小説創作） I-2（絵本・児童文学創作） I-3（キャッチコピー創作） I-4（小説創作） I-5（絵本・児童文学創作） I-6（キャッチコピー創作）
2 破	文芸実技	II-1（小説創作） II-2（戯曲創作） II-3（小説創作） II-4（日本語プレゼン）
	文芸演習	I-1（英語プレゼン） I-2（西欧特殊文化）
3 急	文芸実技	III-1（小説創作） III-2（戯曲創作） III-3（編集） III-4（俳句創作）
	文芸演習	II-1（恋愛心理学） II-2（絵本・児童文学創作2）
	レビュー（同人誌制作）	
4	文芸実技	IV
	卒業研究	

『それから』…

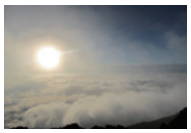
Close up!
進化する「名古屋芸大」のDNA
NUA-ism

Vol.75
NUA-OG
水上茉沙美
（みずかみ　まさみ）
小学校教諭

1991年　愛知県生まれ
2014年　人間発達学部 子ども発達学科卒業
2014年　名古屋市立福田小学校勤務

先輩教師の山本愛可さん（写真右：本学OG、人間発達学部2期生）と

今年3月13日『名古屋ウィメンズマラソン』に参加、5時間28分完走



今年8月27日富士登山。「日本一高い富士山に学級旗をもっていく約束を子どもたちとしていたので、写真を撮りました」

学生時代よりも濃厚な時間

真夏の午後のうだるような日差しの中、勤務する名古屋市港区の福田小学校にお邪魔した。夏休みだが午前中にクラブ活動があり、子どもたちは帰っていった。人気のない学校の廊下は、夏の空気とは裏腹にひややかだ。建物、机、黒板、久しぶりに小学校を訪ねると、得てして子どもの頃感じていたよりも小さく感じるものだが、この学校の校舎は大きく感じる。聞けば、児童数は全校で650名ほど、1学年100名を超えるという。名古屋市が公表している統計によれば、市内小学校の平均児童数は425名というから、校舎の大きさも納得できる。都心部の小学校では、子ども数の減少で教室に空きが出てきているそうだが、ここではまだそんなこともないとのこと。日頃、子どもたちが元気にはしゃぎ回っている気配が、あたりから立ちのぼる。

「お久しぶりです！」にじむ汗をタオルでぬぐいながらも、快活に現れた笑顔は学生時代と変わりない。じつは、水上さんは学生時代、ちょうど隣のページ、『NUA-student』で取材させていただいたことがあるのだ。「先生になりたい」と話すひたむきさが印象的だった。学生時代の夢を叶えた今、どんな心持ちなのか？ 図らずも追跡調査のような取材になった。

「正直、大変です。もう、生きていくのに必死！毎日がこんなに大変なんだと思いながらいます。でも、本当に楽しいです！」　学生時代に考えていたことと実際に教壇に立つことは、大きく異なっていた。「子どもたちは、きっとこういうところでつまずくだろうなと考えて授業の準備をしておくのですが、子どもたちは想像以上で、見当が外れてそれに応えるための準備がなかったり、授業がずれていってしまったときの修正だったり、本当に難しいです」　他の先生が行う研究授業では、学生時代とはまた違った視点で見るようになったという。子どもたちに解るように板書することや、発問（子どもの思考や活動を促すような問いかけ、答えが1つではない、思考が広がるような問い）など、実際に授業をするようになり難しさと奥の深さを実感しているという。「段階を踏んでの教科のつながりがあるんです。1年生で習ったことが2年生になってこうなるみたいなものです。そういったつながりを、今ひとつ分からないまま授業をやってしまっていたこともあります。そんなとき、子どもたちには申し訳ないなと思いつつ、もっと勉強しなくちゃと反省しています」

短期間の実習とは違い、1年間子どもたちと生活することについて聞いてみると、子どもとの関係の難しさと同時に学生時代には得られなかった大きな喜びを感じていると話す。「私は、最初の年が2年生の担任、そのあと4年生を受けもち、今年、持ち上がりで5年生を受けもっています。低学年の子と関わるときは、言葉をより分かりやすくしないといけない。言葉が上手く出てこない子どもの思いも理解してあげたいと思いながら関わっていましたが大変でした。5年生にもなると大人と会話するように話すことができますけど、その分また難しくて。何かあったときにはその子の気持ちを聞いてあげられるよう言葉がけをしたいのですが、その言葉が上手く出てこなかったり、話はできたけど大丈夫かなと不安になったり……難しいですね。でも子どもががんばって成長していく瞬間があるんです。できなかったことができるようになる瞬間や、友だちとの絆が強まっていく瞬間など、すごく嬉しそうにするんですよ（笑）」

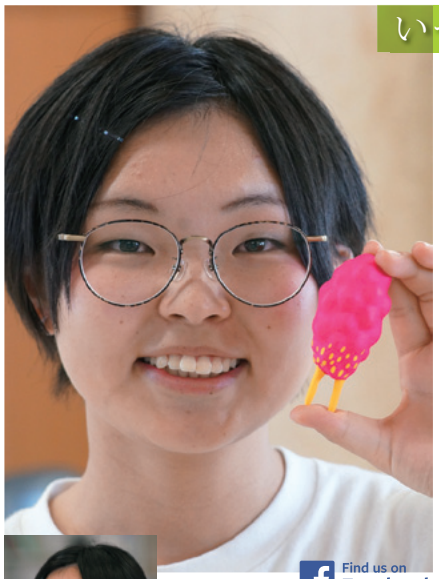
学生時代は、3免（※）を取るために一生懸命だった。実際に職務に就いてみて、学生時代にもっといろいろなことをやっておけばよかったと振り返った。「人間発達学部って、専門が人間発達じゃないですか。もう一つ、別の専門というか、得意分野があれば強みになるのかなと思います。今、不安に思っていることは、自分の得意分野をこれから作っていけるかなということです」　努力してさまざまな分野に積極的に関わっていきたいと思っているという。「自分が経験したこと、旅行に行ったこととかでもいいし、すごい経験をしたという話は、興味があるようで子どもたちは一心に聞いてくれるんです。ですから今しかできないことをたくさんやっておこうと思っています」

今年3月に同僚に誘われ『名古屋ウィメンズマラソン』に参加、見事に完走。今年は、残り少ない夏休みの間に富士登山へ挑戦するという。これらの経験を子どもたちに話していきたいと微笑む。

就職して3年、学生時代の4年間よりも濃厚な日々を走り続けているようだ。はつらつとした笑顔からは確かな充実を感じた。

※【3免】保育士資格、幼稚園教諭1種免許状、小学校教諭1種免許状の3つの免許を取得すること

いっぱい悩もうと思います！



Find us on Facebook

Vol.76
NUA-Student

木下千穂
（きした　ちほ）

美術学部
アートクリエイターコース 彫刻　3年

夢をみる（水粘土）
前を向き、しっかりと立ち、前へ向かっている人を表現しました。

こころ（楠木）
自分の中の気持ちと他の人から見た私を表現しました。

朝（石膏）
1日の始まりの朝を想像し、1日の期待と不安を持ちながら過ごす日々を表現しました。

みたいものがある（白い布、糸）
白い布を見て何色を想像し、何が見えるのか。加藤邸での時、空気、情景を感じて貰えたらと思い造りました。
撮影：山口幸一

日々のドローイング
言葉を考えてからその言葉に合ったら絵を描いています。

箱（スタイロフォーム・石粉粘土・アクリル絵の具）
peace nine展に展示した作品で、戦争について考え、自分の想像や気持ちを込めた作品です。

－彫刻をやってる人って、今は少数派？

同級生は今、私を入れて3人、先輩方は、皆さん合わせて8人。今年になって後輩がたくさん入ったので、ちょっと賑やかになってきましたね。

－どうして彫刻を選んだの？

私、静岡出身で、高校は浜松江之島高校の芸術科というところだったんです。高校で彫刻をやっていて、そのまま大学へ来て、3年生になる時に版画と彫刻とで迷いましたが、彫刻にしました。

－彫刻をずっとやってきたんだ！　彫刻の魅力ってどんなところ？

じつは、絵が苦手で（笑）。両親が二人ともデザイナーで、お父さんはデザインが上手くって、お母さんは絵がすごく上手で、なんか絶対、同じように絵をやるのはヤダなと思って。自分の描けない具合を見られるのがイヤで。それで、なにもいわれない彫刻にしようと（笑）。最初はそんな動機で彫刻を選んで、そのまま、彫刻が面白くなって、はまっていった感じですね。

－高校から美術系の学科なら、そのまま芸大へ行くと決めたの？

高校から大学に行くときに、大学とブライダル業界に就職することとすごく迷ったんですよ。中学の頃から勉強が苦手でしたが、美術で何個か賞を取っていたので、先生に「それを強みに高校にいきましょう」となったんです。そうしてきたんですが、なぜか高校に入ったら結婚式場で働きたくなって（笑）。結婚式場なら、デザインとか、きっと彫刻も生かせるかなぁと。それから、キラキラとした幸せの中に私も一緒に入って嬉しい気持ちになれそうな、人を喜ばせる仕事だし、いいかなと思ったんです。それで、ほぼブライダルの専門学校へ行こうと思っていたんですけど、高校の先生が「教師も向いてるんじゃないか」とおっしゃって、私も「いいですね」となって、そのまま流されて、それなりに悩みましたけど、今に至ってます。

－作品は人体、正統派だね

そうですね。ずっと人体をやってて、人体がすごく好きです。そうしてきたんですけど、3年生になってコミュニケーションアートクラスにいると、皆すごく面白いことをたくさんやるんで……

－いまどきのことをやるよね

そう！ そう！ それで、「なんか、そっちもやりたいぞ！」ってなって、色がいっぱいあるような作品や抽象形を作ったりしています。まだ、本当に始めたばかりなんですけどね。

スケッチブックの絵は、寝る前に描いている。「なにか困ったことがあったら、とりあえずこれを見て、読み返して、ですね」

この作品はスタイロフォームに石粉粘土を被せて、やすったり削ったりしてそれにアクリル絵の具で彩色しました。

－アートクリエイターコースで広がったわけだね

ワークショップに参加したり、海外の作家さんが来てそこで一緒にドローイングしたりして、すごく面白くて、結構、影響されました。先生や事務の方の作品を見たり展覧会に行ったりして、すごくイイなと感じて、そんなに人体に固まらなくてもいいのかなと。木彫とか、石彫とか、そこまでこだわらなくてもいいのかな、と思うようになりました。もっと自分が作りたい形を作りやすい素材で作っていこうかなと。上手く表現できるものを、自分で見つけていければいいかなと思っています。いろいろやってみて、最終的に卒業制作で決められればいいのかなと思います。

－まだ3年だけど、卒業したらどうする？　作家さんを目指す？

いやぁ、将来何がしたいかもわからないままですから。作家を目指すかどうかは別にして、作品は作り続けていきたいですね。自分の部屋に飾るような小さなものでもいいですから。ただ、作り続けてはいきたいですけど作家として一本でやっていくというわけにもいかないように思うので、普通に就職して結婚もして子どもも産んでというのが、一番の夢ですね。親は、大学院には行かずに社会に出て、というんです。大学の4年で終わらず、大学院ならもっと突き詰めたこともできるだろうなとも思うし、でも、社会に出て働くべきだというのもわかるし、私も働きたいし……。大学は4年で終わって、就職してまたそこから考えていけばいいのかなと思っています。

－仕事にするならどんなこと？　教職課程も取ってるんだよね

立体とかオブジェとか舞台美術で大きいものを作ったりとか、やっぱり立体は作っていきたいですし、ワークショップとかやって子ども達に美術を教えるとか、そういうのもやりたいですし。いろいろ調べていく中で決められたらいいのかなと思います。2年の頃は、私は教員になるんだといってたんです。でも、教師になるならもっと社会を知ってからなる方がいいのかなとも思っています。色々な仕事を見て決めていきたいです。

－また、変わるかもね。ブライダルに行ったりして（笑）

とりあえず、いっぱい悩もうと思います！

News & Topics ニュース&トピックス

音楽学部

特別客員教授 野々田万照氏による ジャズポップスコース 公開講座

2016年6月30日㈭、本学東キャンパス2号館の大アンサンブル室で、特別客員教授の野々田万照氏によるジャズポップスコース公開講座が行われました。この公開講座は、マルチエンターテナー（サックス奏者、歌手、作・編曲家、マジシャン、MC、音楽・イベントプロデューサー etc.）である野々田万照氏のサックス演奏と歌やトークを織り交ぜた内容の特別講座で、本年度は今回と後期にも行われる予定となっています。

野々田万照氏は、1964年10月岐阜市生まれ。高校卒業と同時に上京、本多俊之氏に弟子入り。19才でプロデビュー。数々のサポートバンドを経て22才で『本多俊之ラジオクラブ』に参加。'94年、『高橋真梨子ヘンリーバンド』に加入。複数のアルバム、毎年の全国ツアーに参加。'95年、17人からなるラテンジャズビッグバンド『熱帯ジャズ楽団』に結成メンバーとして参加。現在までに、通算17枚のCDと2枚のDVDをリリースしています。海外ミュージシャンとの共演も多く、グレッグ・ウォーカー、イザベル・アンテナ等の来日コンサートにも参加。ボビー・コードウェル、アントゥール・サンドバル、カート・エリング等と共演しています。'05年、本学音楽学部ジャズ・ポップスコースの非常勤講師として、'06年より同大契約教授として '11年まで在籍。現住所を岐阜に持ちながらもジャンルを超えて全国的に活躍中です。

出演は、野々田万照氏（Sax）のほか、サポート役として、吉田大将氏（Bass）と荒川“B”琢哉氏（Perc.）が加わり3名でした。吉田大将氏と荒川“B”琢哉氏は二人とも本学の卒業生で特に、荒川“B”琢哉氏は在学中に野々田万照氏に出会ったことがプロミュージシャンを志すきっかけになった方です。

最初に、音楽学部の山田敏裕学部長より野々田万照氏の紹介があり、公開講座がスタートしました。

まず、野々田万照氏から本日の予定と出演メンバーの紹介がありました。吉田大将氏と荒川“B”琢哉氏の二人が卒業生として会場の学生たちや来場者に紹介されました。そして、ジャズ音楽についての話「曲の途中でアドリブが入ることなどが特色」があり、早速、1曲目が演奏されました。サックスの力強い音色と、ベースの低音の響き、そして、パーカッションのリズミカルな打音が心地よいアンサンブルでした。曲名は「チキン」でした。演奏後はジャズ音楽の特色に関する解説と楽しさについての話がありました。

この後は、トークの時間でした。「ミュージシャンになりたい人はいますか？」、「ミュージシャンになるには何が必要ですか」などを会場の参加者に質問しながら話が進みました。また、紅白歌合戦が行なわれるNHKホールについて、実際にはテレビで見るほど広くないことや、音楽業界の常識等について、昼も夜も「おはようございます」という挨拶をする理由など、時折、冗談を交えながら楽しいトークがありました。そして、一緒に出演している荒川“B”琢哉氏と吉田大将氏それぞれに、「名芸大に入った理由など」を質問しながら、自身は、大学には行かないで18才で上京したことなどを話し、前半の講座を終了しました。

休憩をはさんで後半は、「ムード歌謡」の話しで始まりました。「ムード歌謡って皆さん聞いたことがあると思いますが、知っていますか？例えば、『コモエスタ赤坂』とか『わかれても好きな人』とかいう歌ですが」ということで、ムード歌謡について解説されました。「演歌は原曲が民謡ですが、ムード歌謡の原曲はラテン音楽です」とのことで、自身がリードヴォーカルとしてリリースしている『お熱いのがお好きでしょう』を歌われました。ラテン調の軽快なリズムに乗って、良くとおる素晴らしい歌声が会場に響きました。

この後、本日2曲目として、ラテン音楽の名曲『Manbo in』が演奏されました。会場から盛大な拍手が送られていました。

演奏後は再びトークで、自身のプロフィールを振り返りながら、高校卒業後上京してから弟子入りし大変苦労したこと、22才のころは心労で激ヤセしていたことや、「ラジオクラブ」というバンドに3年間所属していたことなどの話しがありました。

そして、3曲目の演奏は、伊丹十三氏が監督して大ヒットした国税局査察部に勤務する女査察官を主人公にした映画『マルサの女』の主題曲でした。

この後も、「ラジオクラブ」や「ラテンジャズビッグバンド」に所属していた頃の話がありました。ご自身の経験から「ミュージシャンは、仕事は知人や友人を通じて入ってくることが多いので、様々な活動を通して知人や友人との関係作りが大切ですね」との話しで、本日の公開講座を終了しました。

音楽学部

第18回 ピアノサマーコンサートを 開催しました

2016年8月9日㈫、本学東キャンパス3号館ホールで、第18回ピアノサマーコンサートを開催しました。

このコンサートは、演奏学科ピアノコースの前期実技試験で選抜された学生が演奏するもので、日頃の成果を発表する場です。出演する学生は、一所懸命に練習してきた曲を披露しました。会場には、卒業生や演奏を楽しみしている近隣の方々に加え、演奏者の友人や家族も数多く訪れているようで、心温かい雰囲気でした。プログラムは3部構成で、1年生から3年生までがショパンの「12の練習曲」などを独奏しました。1年生にとっては大学入学以来初めての公開演奏となり、友人や家族に見守られる中、緊張した面持ちで演奏に臨んでいました。2年生、3年生の演奏では、技術も表現力も高まり、観客はうっとりと演奏を楽しんでいる様子でした。

真剣に演奏に取り組む演奏者たちに、いずれも惜しみない拍手と声援が送られていました。

人間発達学部

オープンキャンパスを 開催しました

2016年7月16日㈯、人間発達学部のオープンキャンパスを開催しました。本学東キャンパスで体験講座やキャンパスツアー、在学生との交流イベントを催し、訪れた高校生たちに人間発達学部の魅力を体験していただきました。

当日のスケジュールは、午前と午後の2部構成。午前のプログラムは、学部の概要説明や実際に行われている授業を受講する体験講座を、午後はキャンパスの施設を見学し体験活動を行うキャンパスツアー、体育館を使った学生との交流イベント、入試や大学生活についての相談会などを行いました。

来場者は、朝10時から1号館で参加受付を済ませ、701教室に移動、全体説明会を受けました。学生たちによる演奏に続き、星野英五学部長が人間発達学部のカリキュラムや教育内容、学校行事、入試情報などについて説明しました。芸術大学の中で学ぶ幼児教育の特長や取得できる免許についてなど、学部の特徴となるポイントについて詳しい解説がありました。説明に続いて学生たちの進行によ

る「学生トーク」が行われ、学内での生活や学生目線で語られる本学の魅力について元気いっぱいに紹介しました。年齢の近い身近な学生たちの声に、来場者は親近感を抱いているように見受けられました。

休憩を挟み、体験講座として、701教室では南元子准教授による「保育・幼児教育　絵本の世界にようこそ！」、702教室では中嶋理香教授による「子ども・教育・心理　大学で学ぶ子どもの心理」が行われました。大学に入った後どんなことをするのかといった導入に当たる内容の講義に、受講した高校生たちは興味深げに聞き入っている様子でした。

講座の後は、午後の体験ツアーのためのグループ分けをゲームで行い、グループごとに分かれて自己紹介や名札作りを行いました。来場した初対面の高校生同士がコミュニケーションを取り、ゲームをしながら行う方法を採ったので、自己紹介も和やかな雰囲気で進められました。これらの進行は、学生スタッフにより行い、高校生たちも和気あいあいとした様子を見せていました。

また、高校生たちがグループ活動を行っている傍らでは、教員らにより保護者対象の説明会が行われ、資格免許、進路、就職状況などを説明しました。参加された方々は、説明を真剣に聞き入っていました。

昼食の後は、グループごとに体験ツアーを行いました。今回初めてオープンキャンパスに訪れた「まるごと体験ツアー」と、前回のオープンキャンパスにも参加した高校生たちで編成された「選べる体験ツアー」に分かれ、それぞれのグループで異なる内容の体験ツアーに出発しました。

「まるごと体験ツアー」では、東キャンパス内にあるクリエ幼稚園や、にこにこワークショップ、図書館、ピアノ練習室などを見学。「選べる体験ツアー」では、クリエ幼稚園の見学のほか、AO入試対策の相談・模擬面接を行いました。模擬面接といっても、入試相談や入学後の進路についての質問も受け付け、気軽な雰囲気で面談が行われていました。

❶ウェルカムコンサート、人間発達学部学生による演奏
❷体験講座「子ども・教育・心理　大学で学ぶ子どもの心理」（中嶋理香教授）
❸「学生トーク」本学の魅力を紹介
❹まるごと体験ツアー、学内を見学
❺体験ツアー、にこにこワークショップを見学
❻体験ツアー、クリエ幼稚園を見学

ツアーの後は、8号館 体育館で、部活・サークル紹介、学生との交流イベントを行いました。ダンスサークルとリズム体操部のダンスが披露され、大きな拍手が送られていました。

交流イベントでは、新聞紙タワーゲームを行いました。3つのチームに分かれ、学生スタッフと一緒に1日分の新聞紙を使い制限時間内にできるだけ高いタワーを作るというルールで競い、大いに盛り上がりました。交流イベントの間、随時、相談面接やピアノ特別レッスンも行い、盛りだくさんの1日となり、参加した高校生たちはオープンキャンパスを満喫した様子でした。

人間発達学部のオープンキャンパスは、8月20日㈯にも同様の趣旨で開催されました。

美術学部　デザイン学部

美術領域・デザイン領域・芸術教養領域のオープンキャンパスを開催しました

2016年7月17日㈰、西キャンパスで美術領域・デザイン領域・芸術教養領域のオープンキャンパスを開催しました。今回のオープンキャンパスは、ワークショップ（工房体験）を中心に、進路・入試相談と持参作品へのアドバイス、学生作品展示、キャンパスツアーなどで、高校生の皆さんに現実のキャンパスライフを楽しんでいただきました。また、多彩なプログラムや公開授業により、美術領域・デザイン領域の魅力や芸術教養領域の内容を直接体験していただく機会となりました。

ワークショップ（工房体験）では、美術領域では昨年から始まった新しい試みとして、鏡を見ながら、色砂を使って自画像にチャレンジする「砂で描く自画像」（洋画）や、段ボール・新聞紙などを使い、動物や昆虫、オリジナルキャラクターなどを創作する「段ボールでフィギュアをつくろう」（コミュニケーションアート）、古代彫刻のマスクを見ながら、粘土を使って摸刻にチャレンジする「マスクの摸刻」（彫刻）などが行われ、参加者の皆さんに楽しんでいただきました。

一方、デザイン領域では、色鉛筆でイラスト缶バッチを制作、写真を撮ってバッグを作る、デジタルキャラクターやノートを作る「MCD雑貨ラボ（写真＋グッズ＋文房具）」（メディアコミュニケーションデザイン）や、手作りの簡単な織り機を使いリストバンドを織ってみる「輪ゴムで織るリストバンド」（テキスタイルデザイン）など人気のワークショップとともに、来年度から新たに設置される文芸・ライティングコースでは、CMフィルムを見て、ミニ講義を受講した上でキャッチコピーを制作する「キャッチコピーワークショップ」が行われました。

また、来年度新設される芸術教養領域（リベラルアーツコース）では、B棟視聴覚室で「絵本とことば～いろいろな文体で訳してみよう」というテーマのワークショップが行われました。一つの絵本をいろいろな文体で訳してみることで、ことばの面白さ、翻訳の奥深さを体験。自分のオリジナル訳が載った仮想絵本をスクリーン上で鑑賞してもらいました。

U棟では、公開授業として、特別客員教授の檜原由比子氏に指導を受けた「生活を豊かにする新しいカレンダーの提案」は、新しい視点を持つオリジナルカレンダーの企画制作、パティスリー FUKAYAとの産学連携活動による「美大生の想い、めしあがれ」と称したスイーツデザインの企画、それぞれの課題で制作した内容を教室に展示して講評会が行われました。

❶美術領域相談コーナー（日本画）
❷文芸・ライティングコースワークショップのコーナー（担当の荻原雄一教授）
❸リベラルアーツコースのワークショップの様子
❹コミュニケーションアートワークショップ「段ボールでフィギアを作ろう」
❺工芸・陶芸ワークショップ「ガラスアート」
❻カーデザインワークショップ（クレイモデル作りに挑戦）

両課題共、このオープンキャンパスの発表に向けて授業を重ね、最終プレゼンテーションとして高校生、保護者が見学する中、檜原氏、フカヤ氏に発表しました。

パティスリー FUKAYAとの産学連携活動はケーキショップ「パティスリーFUKAYA」（半田市）で実際に店舗で販売する生ケーキの商品開発を行い、学生たちが考案した商品は、月替わりで順次店舗で販売されています。この公開授業を見学した高校生たちは、「実際の授業を見ることができた！」と感想を述べていました。

他にも、美術領域・デザイン領域の学生作品はG棟（美術学部）とX棟（デザイン学部）に、アート＆デザインセンターでは、2016年度の企画展「版の方法論；50×50展」などの展示が行われ、作品に触れた高校生たちは、キャンパスライフのイメージを膨らませていたようです。

このほか、学内の主な施設をスタッフが丁寧に案内する「キャンパスツアー」も行われました。

美術学部　デザイン学部

官学連携活動 北名古屋市×名古屋芸術大学 市制10周年記念 ナンバープレート デザインコンペの 最終審査が行われ、 デザイン案が決定されました

2016年7月26日㈫、北名古屋市役所西庁舎の4階大会議室で、北名古屋市制10周年記念原付バイクナンバープレートデザインコンペの最終審査が実施され、本学デザイン学部の学生たちがデザイン案のプレゼンテーションを行いました。

このナンバープレートデザインコンペは、北名古屋市が10周年記念事業の一つとして、原付バイクのご当地プレートのデザインを募集しているもので、今年5月24日に北名古屋市からの説明会が本学で開催され、デザイン学部の学生たち（1～4年生）がそのデザイン制作に取り組んできました。

今回は最終審査で、6月21日に本学で行われた一次審査を通過した3人（組）の学生たちが、一次審査で指摘された修正点を反映させた内容について、そのコンセプトとデザイン案を、北名古屋市の審査員6名の方にプレゼンテーションしました。

最終審査で発表されたのは以下の作品になります。

○メディアデザインコース3年
三浦翔大さん
北名古屋市の花であるツツジをモチーフとした『愛されるまち』『未来への希望』をコンセプトにしたデザイン。

○メディア・コミュニケーションデザインコース4年　藤本幸奈さん
『未来への飛躍』をテーマとし、『平和夏祭り』と『風船飛ばし』をモチーフにしたデザイン。

○ヴィジュアルデザインコース3年　土松由依さん・保利みちるさん・馬暁娜さん3名のグループ

1 最終審査会場の様子（手前：審査員の皆さん、右手：本学学生、左手：本学教員と市の司会担当者）
2 三浦翔大さんの発表
3 土松由依さん・保利みちるさん・馬暁娜さん３名の発表
4 最終審査会に出席した学生たち

北名古屋市の木（木犀）と市の花（ツツジ）を使ってオリジナルキャラクター（キッツ）を制作し、芸術の町を表現したデザイン。

それぞれA4版の資料を審査員に配布して、原寸大デザイン案（A3ボード）を手に持って、2．3分の持ち時間でプレゼンテーションをしました。

学生によるプレゼン終了後、15分程度の休憩がもたれ、その間に別室で審査員による協議が行われました。

再開した会議で、審査委員長より協議の結果と講評が発表され、今回のコンペでグランプリ賞となったのは、ヴィジュアルデザインコース3年土松由依さん・保利みちるさん・馬暁娜さん3名による作品となりました。また、三浦翔大君と藤本幸奈さんには、準グランプリ賞が贈られました。

受賞された皆さん、おめでとうございました。

なお、この原付バイクナンバープレートの新デザインは、今年末から実施に移される予定です。

美術学部　デザイン学部

「みんなが芸大生になる日 一日芸大生」を 開催しました

2016年7月31日㈰、恒例となっている「一日芸大生」を開催しました。「一日芸大生」は、小学生から参加することのできる体験講座で、本学の設備・施設を利用して創作活動を行い、芸大生になった気分を味わいキャンパスライフを楽しんでもらう催しです。美術学部とデザイン学部、合わせて13の講座が設けられ、受講者はそれぞれの講座で、思う存分創作に励みました。

会場となった西キャンパスには、始業時間に合わせて子どもたちや保護者の皆さんが集いました。事前に受講の申し込みを済ませている参加者たちは、名前を確認し、学部ごとに分かれている入学式会場へ入りました。入学式では、学部長のウエルカムスピーチをはじめ、各講座の担当講師やチューターの紹介、スケジュール説明などが行われました。学部長のスピーチでは、定員をはるかに超える多数の応募があったことに対し改めてお礼と感謝の言葉がのべられ、受講者たちからは、幸運を喜ぶ素振りと、しっかりと講義を受けようという熱意が感じられました。入学式が終わると、参加者は受講コースごとに別れて教室に移動、担当講師から取り組みテーマや制作工程などの説明を受け、制作に取りかかりました。

授業の合間のランチタイムは、講座ごとに学生食堂の席に着きおしゃべりを楽しみながらの昼食となりました。緊張気味だった参加者たちも、この頃にはすっかり仲良くなり、和やかな雰囲気となりました。また、講師やチューターから大学のことや授業の話を聞くなど、楽しいランチタイムを過ごしました。午後からは保護者の皆さんを対象にした見学ツアーが開催され、担当講師による大学の説明や制作現場の見学が行われました。講師の話に熱心に耳を傾けたり、教室の隅に置いてある学生た

1 日本画コース「貝合わせを作ろう」
2 洋画コース「似顔絵」
3 アートクリエイターコース「彫刻」
4 アートクリエイターコース「紙版画」
5 メディアデザインコース「アニメーション制作」
6 メタル＆ジュエリーデザインコース「時計制作」

Column NUA No.34

言葉を受けとめる ― 関係・教育の基層の方へ ―

美術学部教養部会 教授　小西二郎

近年、「『コミュニケーション教育』、花盛り」です。今ではいたるところで「コミュニケーション能力」が求められ、なかでも話すことが重視されています。<話すことは言葉を繰り出すから能動的。言葉を受けとめる（音声言語を聴く／手話などの身振り言語をみる）ことは受動的>という見方がそこにはあるようです。でも、本当にそうでしょうか？

自分が話しているのに、その場にいる人たちの多くが聴いてくれていないと、話す気が薄れてくる――こうした出来事は「話す－受けとめる」の対話性を浮かび上がらせます。通常、私たちが「話をしよう」「文を書こう」と思うのは、言葉を受けとめてくれる相手がいるからです。「話す・書く」ために言葉を繰り出すのではなく、受け手の「受けとめる」という行為に向けて言葉を発するからこそ「話す・書く」は進みます。「言葉を受けとめる」ことは、話すという能動的な行為を支えているというわけです。ですから、誠に能動的な行為だといえるでしょう。その意味からしますと、「聴き上手」はとてもすばらしいことです。

では、「言葉を受けとめる」とはどういうことでしょうか。本当のところ私たちは何を受けとめるのでしょう。

まず、言葉によって意味されていることは何でしょう。「それは、言わんとしていることそのものズバリ」かというとそうとは限りません。むしろそういう場合は少ないでしょう。「なんて言ったらいいんだろう」、「うまく言葉にできないんだけど」という言葉を口にする時、私たちは、感じたり、思っていることを言葉

ちの作品に感心する姿が見受けられました。

午後の授業になると創作にも慣れてきて、受講者たちは一層集中して創作に没頭していました。陶芸のシニアコースで受講していた参加者からは「常々やりたいと思っていた陶芸を体験することができてとても満足。ぜひとも生涯学習講座も受講したい」との声も聞かれました。

授業の終了後には、この日制作した作品などを持ち寄り卒業式が行われました。それぞれ、作品を大切そうに手にしている姿が印象的でした。各コースからの実施報告の後、学部長より参加者全員に卒業証書が手渡され、一日芸大生は終了となりました。来年の一日芸大生にもぜひご参加ください。

名古屋芸大グループ校特集

たきこ幼児園

自然にふれて 感動体験こそ保育のいのち

たきこ幼児園は開園して3年目の0歳から就学前までの子どもたちが生活する保育所です。名古屋芸術大学保育専門学校、滝子幼稚園と共に名古屋芸術大学滝子キャンパスとして連携し事業展開しています。

園の位置する環境は、隙間なく住宅・マンション、学校、商店が建ち並び、歩道のない道路を車や自転車に乗せられて登園してきます。園児の生活範囲の中にのん気に歩ける歩道もなければたんぽぽなどの雑草すら見当たりません。園長職を受けたとき、子どもの体づくりと自然体験が大きな課題でした。全身を使って運動するリズムあそびと、手指を使う微細運動、とりわけ知的な発達を促すモンテッソーリ教育の導入を保育活動の柱としました。

園庭は決して広いとは言えませんが、藤棚の下に砂場、その隣に小さなビオトープ道路際に8本の果樹を植えただけのものでしたが、夏には栗の木の切り株や丸太を入れたり、タイヤを埋めて、渡る、上る、跳び越えるなど少しずつ体の様々な機能を使う機会を作ってきました。2年目には築山を作り斜面の上り下りを楽しみ、さらに平均台や登り板、乳児用の滑り台など、子どもたちの活動の様子を見ながら発達要求を満足させる環境を手作りで整えてきました。

また、畳一畳ほどのところにサツマイモの苗を植えて水やり等の世話の後、秋には収穫体験もしました。大きな芋を掘り当てた感動は無論ですが、土を掘る、根っこに触れる、さらに土の中には見たこともない虫や幼虫を発見し、うれしさや驚きの歓声を上げる様子にふれて、幼児期の直接見て、触れて、感動する体験が様々な活動に意欲的に取り組むカギになるのだということを改めて子どもたちから教えられました。

勢いづいた私たちはすぐに、今度は大根抜きのできる所はないかと思いめぐらしましたが、残念ながらこの近くには畑など見当たらず、公共交通機関で行ける所だと、片道2時間かかりますが豊田市小原に縁をつけ、お天気の良い日を見計らって出かけました。保護者の負担を軽減するためにお弁当はおにぎり2個のみ。ゆっくりのんびり電車とバスを乗り継いで下りたところが大きな空と遠くに山波が連なり、田園が広がる小原の地。その自然の豊かさに魅了され、この地を自然体験の拠点にすることに決めました。

冬には紙漉き体験をして卒園証書を作り、裏山に登りスーパーでしか見なかったキノコを発見し、藪こぎをして頂上にたどり着く冒険をした子どもたちはひと皮むけたかのごとく、気持ちが前へ、前へと全ての活動に目を輝かせて自ら積極的に取り組む姿が見られました。

また、卒園を記念して善師野から犬山遊園までの東海自然歩道を歩き、保育の柱であるリズムあそびでバランスの良い体づくり、モンテッソーリ活動で手指の器用な動きを身に付けて2年目にして初めて7人の卒園児を送り出すことができたことは私たち職員の「たきこの保育」に対する確信と大きな自信を持つことができました。

3年目の今年度は春に田んぼの中のオタマジャクシやカエルなどの生き物を捕まえて園で飼育したり、夏には川遊びを体験しました。一度目より二度目、二度目より三度目と徐々に探求心が深まり、8月末のお泊り保育では100mの上流まで行きました。

石の上をバランスをとりながら、深いところや流れの速いところは慎重に一人ひとりのペースで歩を進めます。滝の中で大きな歓声を上げながら「オモシロイネエ～」と楽しさを共有して、とびっきりの笑顔を見せてくれました。また、リュックから出す、分類する、詰める、物の管理をする、着替える、米をとぐ、野菜を切るなどの身辺の自立と共に日常とは違う環境への適応、夜もホームシックにならず、スムーズに眠りにつくことができ、精神的な自立の姿も見ることができました。自然環境に積極的にかかわり、興味関心、探求心を発揮し、疑問を解決しようとする、知的自立の姿も見られ、モンテッソーリ教育で言われる3つの自立の力が一人ひとりに付いてきていることが何より大きな喜びでした。

日常的に、日課としているリズムあそびとモンテッソーリの活動。加えて園庭でののん気な遊び、近くの公園やお弁当を持っての鶴舞公園、さらに電車やバスを乗り継いで大きな自然のある小原での一日。そのどれもが子どもたちの健やかな発達には欠かすことができず、それぞれの活動が相互にリンクして絡み合って、たきこ幼児園の保育目標「輝く瞳で遊び、よく笑い、仲間と一緒に生きる」ことの喜びを全身で表現してくれるのだと、目標実現の手ごたえを感じ保育する幸せをかみしめています。

ここに至るまで実にたくさんの方の有形無形のご支援、ご協力を頂きました。紙面を借りてお礼申し上げます。

にできない自分に対するもどかしさ（語彙が乏しい、表現力がない）とともに、というよりも、むしろそれよりも言葉そのものに対するもどかしさ（言葉は、私たちが感じ、思っていることを全て表し得るものではない）を痛感します。言葉はよくて“近似値”、場合によっては“比喩”でしかないことさえあります。

しかも、言わんとすることを言葉に変換する際に介在する「常識」（「常識」はいつも「良識」だとは限りません）の及ぼす独特な影響が加わります。「常識」は、時に、あたかもプリズムのように、私たちの認識・洞察の光を、あるところに焦点を結ぶよう収斂させたり、あるいは散乱させたりします。

そうなるとますます言わんとしていたことと言葉との間にズレが生じます。

「言葉を受けとめる」とは、そうしたズレに敏感になって、言葉によって意味されたことだけでなく、意味され得なかったことも受けとめようとすること、語られ得ぬことも聴こうとすることです。こうした姿勢で臨むと、さらにいろいろなことが聴こえてきます。

話されたこと、書かれたことは、受け手にとっては、様々な文化的要素によって織りなされている「引用の織物」（ロラン・バルト）とでもいうべきものです。それぞれの要素は独自の意味合いを帯びており、受けとめる文脈によってその意味合いは変わり得ます。

こうして、私たちは対話において、他者の言葉の中に、そして自分の言葉の中にいろいろな声を聴くことになります。対話はこのようにポリフォニック（多声的）で、意味創発性に開かれたものです（ミハイル・バフチン）。「言葉を受けとめる」ことは、そうした対話の展開のかけがえのない契機であり、実にスリリングな行為です。

さあ、言葉を受けとめ、豊穣な対話の世界に漕ぎ出でましょう。

マスター to アーティスト

【第34回】

＜この先へと＞

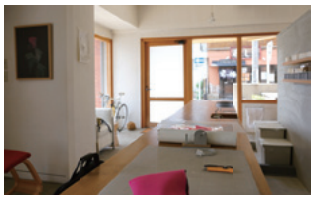
則武輝彦

（のりたけ　てるひこ）

デザイン学部　准教授
有限会社テンポ　運営
www.10po.com/

1967年　愛知県生まれ
1991年　名古屋芸術大学美術学部造形実験コース卒業
1995年　有限会社ハイ制作室入社
2000年　有限会社テンポ設立
2013年　名古屋芸術大学デザイン学部デザインマネジメントコース講師

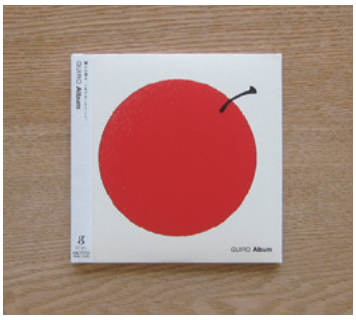
2003年　JAGDA GRAPHIC DESIGN IN JAPAN 2003 入選
年鑑作品展「日本のグラフィックデザイン2003」



通り側に大きく開いた窓と白い壁にウッドで統一されたインテリア。カフェバーのような大きなカウンターもある。おしゃれなオフィスというと見た目ばかりで無駄が多く、使いにくそうに感じるところも多いものだが、ここはそんなことはないようだ。大きなテーブルには、やはり大きなポスターの色校正が広げられ、ボトルやグラスが並んでいたと思われる棚には、資料と思われるグラフィック関連の書籍がびっしりと整列する。この場所がデザイン事務所としてしっかりと機能していることがわかる。則武氏が運営するデザイン事務所にお邪魔した。「独立したときに、光がよく当たる、外から見て何をやっているかわかるようにしようと考えました。きっと夜遅くまで仕事して引きこもってしまうと思ったんですよ。カウンターは、一時期ですがここで店をやっていたんです。もともと画廊だった場所で、棚もそのときからです」

デザインといっても、ポスターや書籍に限らずさまざまなジャンルに及ぶ。自主レーベルでCDもリリースしている。「お店の話は、あまりしたくないんです。迷惑をかけちゃった人もいますので……。デザインをやっている同じスペースで、緑茶を出す喫茶店をやっていました」 曰く、商業デザインはモノを売るためにすることで、デザインを考えるということはそのモノを売るためのことを考えることである。しかしほとんどの場合は、デザインしたのち販売の現場や成果を知る事がない。モノを「売る」事の直接的な経験は、デザインへのフィードバックが大きいはずである。かくして喫茶店を始めることになったとのこと。つまりデザインの実証実験だ。結果は、今現在、喫茶店のカウンターの上に色校正が置かれていることを見れば自ずとわかるが、失敗だった。「構造的に無理がありましたね。デザインの仕事をやっているのと同じ空間にお店があることに意味を感じていましたが、デザインと店の経営はどちらも片手までは済まないもの。力が分散してどちらも中途半端になってしまいました」 しかし、非常にいい経験にもなったという。「授業なんかで、ブランディングをしましょう、自分でブランドを考えましょう、ロゴを作りましょう、みたいな課題をやったりしますが、実際にやったわけですから。実際にやってみて、思い通りにいかず、体力的にも消耗しましたし、精神的にもショックでした。それまで、依頼を受けて店のロゴを作ったりしてきたわけですが。その都度、いいものを作ろうとお客さんに話を聞いて考えて、真剣にやってきました。でも、実際に体験してみると、オーナーの立場に立ってもっと細かく考える事があるなと実感しました」

CDのリリースは、知り合いのバンドをサポートする形で始めた。8センチのシングルCDをパソコンで焼き、プリント出力したジャケットを1枚1枚、手で折って、文字通り手作りした。「いろいろなことに手を出しているように見えるかもしれませんが、やっていることはデザインなんです。デザインを使う場所に多様性を持ちたいと思っているんです。例えばクライアントになってみたり、実際に商品を作って販売してみたり、そのときどういう問題が見えてくるかとか、自分で



CD
Guiro「Album」
2007

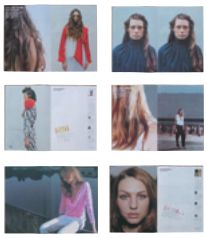
写真集「中川 運河 写真」
2012

展覧会「黒へ／黒から」
「FROM THANK-CHU」
2011

宝山流　リーフレット
2013

展覧会
「コレクションの全貌展」
2013

広報誌「DISPATCH」
2004



「円空と
中川区」
2016

2007年　愛知広告協会賞　入選（NTTドコモ　PR誌）
2011年　愛知広告協会賞　入選（両口屋　シリーズポスター広告）
2012年　JAGDA GRAPHIC DESIGN IN JAPAN 2012 入選
年鑑作品展「日本のグラフィックデザイン 2012」
東京ミッドタウン・デザインハブ
2013年　「デザインモナート グラーツ 2013」 designHalle
（グラーツ市／オーストリア）
2013年　「The book as ART」 galerie P+EN（名古屋市）

やってみることでわかってきます。お金の問題もあって、いくら印刷にかかり、いくらの利益が出るかを考えながら制作すると、力を入れるべきバランスやタイミングを考えるようになります。戦略も含めて、クライアントと一緒になってデザインするわけですよね」

グラフィックデザインの世界に身を置きつつ、クライアントのこと、さらにデザインすることの意味を実践することで確認する。そうしたことを繰り返してきたのだろう。

異論はあるかもしれないが、あえていうならば、これまでグラフィックデザインの業界は、大手の資本と結びつき商業デザインの範疇で発展してきた。このことは必ずしも悪いことではなく、大きな資本によって、美しいもの、贅沢なものが世の中に提供されてきた。文化を提供したといってもいいだろう。しかし、昨今では、こうした大資本の役割が変化してきたと話す。「インターネットが普及し、新しいコミュニケーションが生まれるなかで、人の趣味趣向が多様化・細分化しています。それに合わせてマスメディアも、形を模索している所だと思うんです。これまで、グラフィックデザインの業界は、企業や商業と深く結びついて来ましたが、社会が大きく変化してゆく中で、デザインに求められるものも大きく変わってくるのではないでしょうか」

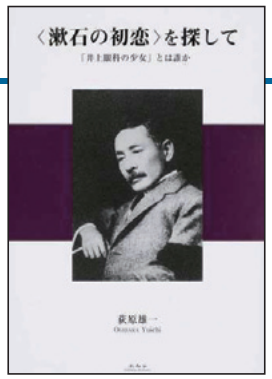
今まで以上に費用対効果を問われる時代である。広告という制約はあったにせよ自由に発展してきたグラフィックデザインの世界が、このまま萎縮してしまうのだろうか。そうではないと話す。「グラフィックデザインの役割はどうなったかというと、なくなることは全くなくて、逆に概念としては有効で、むしろ企業だけでなくいろいろなところで求められていると思うんです。基礎に立ち返って考えてみると、視覚デザインのコミュニケーション力というのは変わっていません。もう一度、基本に戻ってデザインを組み立てていく必要があるように思っています」　３年ほど前から、本学の非常勤講師として学生たちと接してきた。そこに可能性を感じているという。「これまでＣＤや冊子出版など意識的にいろいろな分野のことをやってきましたが、これから世の中とグラフィックデザインがどうやって結びついて、どんなふうに変わっていくだろうと思うと、しかも、それを仕事としてやっていくとなると大変だぞ、という気持ちです。その反面、すごく楽しみな部分もあってワクワクします。社会との新しいつながりの可能性はたくさんあるはずです。学生と接していると、自分とは感覚が違うと感じることがあります。いい悪いではなく、彼ら、彼女らが育ってこれからのグラフィックデザインの世界を作っていくわけじゃないですか。かといって、突然全く違ったものが生まれる訳ではなく、これまでの積み重ねの上に新しいものが芽生えると思うので、こちらも柔軟に、これからの社会の変化を注意深く見ながら、楽しく美しい未来をともに模索していけたらと思います」

これから何が起こってくるかは予想が付かないといいつつも、「視覚デザインの基礎的な部分がしっかりしていれば、どんなに時代が変わったとしても対応していけると思います」と語った。業界に縛られてスキルを高めていったとしても、そのスキルはこれからの時代、偏ったものでしかないのかもしれない。これからの時代デザインが社会にどう関わっていくか、どう変わるのか。この先が見てみたいのだと語った。

Information
インフォメーション

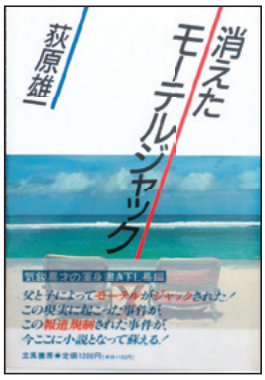
出版 Books

教員著作の出版物のご紹介です。
（編集期限までに報告されたもの）



■ 荻原 雄一
（名古屋芸術大学デザイン学部教授）
『〈漱石の初恋〉を探して
「井上眼科の少女」とは誰か』
● 発行／未知谷

■ 舟橋三十子
（名古屋芸術大学音楽学部
音楽文化創造学科教授）
一冊でわかるポケット教養シリーズ
『形式から理解するクラシック』
● 発行／
株式会社 ヤマハミュージックメディア



■ 荻原 雄一
（名古屋芸術大学デザイン学部教授）
『消えたモーテルジャック』
● 発行／株式会社立風書房

■ 編者 豊田和子
（名古屋芸術大学人間発達学部子ども発達学科教授）
『実践を創造する保育原理』
● 発行／株式会社みらい

2016年度オープンキャンパス日程

■ 2016年 10月30日（日）
全学部・全領域　ミニオープンキャンパス
芸大祭と同時開催

■ 2016年11月19日（土）
芸術教養領域
10:00～16:00（東キャンパス）

■ 2017年3月4日（土）
音楽・芸術教養領域・人間発達学部
10:00～16:00

2016年度 音楽学部演奏会スケジュール（予定）

11月

室内楽のタベ 2016
日　時／2016年11月8日（火）18：00開演予定
会　場／電気文化会館　ザ・コンサートホール
入場料／無料（全自由席）

音楽学部第39回定期演奏会
日　時／2016年11月17日（木）18：00開演予定
会　場／三井住友海上　しらかわホール
入場料／無料（全自由席）整理券あり

オーケストラ第34回定期演奏会
指　揮／古谷　誠一
日　時／2016年11月25日（金）18：45開演予定
会　場／愛知県芸術劇場コンサートホール
入場料／500円

12月

室内楽のタベ 2016（大編成の部）
日　時／2016年12月6日（火）18：30開演予定
会　場／名古屋芸術大学音楽学部3号館ホール
入場料／無料（全自由席）

「Earth Echo」電子オルガンコース第19回定期演奏会
日　時／2016年12月8日（木）18：30開演予定
会　場／熱田文化小劇場
入場料／無料（全自由席）

1月

アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン
第18回定期演奏会
指　揮／ヤン・ヴァン デル ロースト
小野川　昭博
日　時／2017年1月15日（日）　開演時間未定
会　場／名古屋芸術大学音楽学部3号館ホール
入場料／無料（全自由席）

2月

第15回　歌曲のタベ
日　時／2017年2月2日（木）18：30開演予定
会　場／熱田文化小劇場
入場料／無料（全自由席）

研究生修了演奏会
日　時／2017年2月9日（木）18：00開演予定
会　場／熱田文化小劇場
入場料／無料（全自由席）

大学院音楽研究科特別演奏会
日　時／2017年2月16日（木）18：00開演予定
会　場／名古屋芸術大学音楽学部3号館ホール
入場料／無料（全自由席）

Kaleidoscope2017
日　時／2017年2月18日（土）16：00開演予定
会　場／名古屋芸術大学音楽学部2号館
入場料／無料（全自由席）

ピアノのしらべ　第21回　春のコンサート
日　時／2017年2月22日（水）17：30開演予定
会　場／熱田文化小劇場
入場料／無料（全自由席）

オペラ公演「魔笛」
日　時／2017年2月25日（土）開演時間未定
会　場／西文化小劇場
入場料／未定

オペラ公演「魔笛」
日　時／2017年2月26日（日）開演時間未定
会　場／西文化小劇場
入場料／未定

※予定につき変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。
お問合せ先／名古屋芸術大学音楽学部演奏課
Tel. 0568-24-5141
※オペラ公演については（株）クレアーレ
Tel. 0568-26-3355にお問い合わせください。

チケットお取り扱い場所
● 名古屋芸術大学音楽学部演奏課
Tel. 0568-24-5141
● 名古屋音楽学校
Tel. 052-973-3456
● 愛知芸術文化センターB2Fプレイガイド
Tel. 052-972-0430
● ヤマハミュージック名古屋支店プレイガイド
Tel. 052-201-5152
● カワイ名古屋
Tel. 052-962-3939
※オペラ公演については（株）クレアーレ
Tel. 0568-26-3355にお問い合わせください。
※一部取り扱いのない公演がございます。

アート&デザインセンター 2016年度展覧会スケジュール（予定）

10/21（金）～11/ 2（水）	2016年アート&デザインセンター企画展 絵本作家 三浦太郎展　こどもアイデンティティー
11/ 4（金）～11/ 9（水）	『幼稚園児たちのゲイジツ 2016』展
11/ 4（金）～11/ 9（水）	『Hand Hospeace:医療と美術　2016』
11/11（金）～11/16（水）	MCDデパートメント
11/18（金）～11/23（水）	版の神髄;マルメから 2016展
11/25（金）～11/30（水）	メディアデザインコース展
12/ 2（金）～12/ 7（水）	洋画2コース2年生展覧会
12/ 9（金）～12/14（水）	ブライトン大学との国際交流20周年記念事業展
12/ 9（金）～12/14（水）	2016年度後期留学生作品展
12/16（金）～12/21（水）	こどもの空間　絵本と家具
12/16（金）～12/21（水）	洋画2コース　4年　三人展
12/16（金）～12/21（水）	地場産業の布展（仮）
1/ 6（金）～ 1/11（水）	ガラス・陶芸コース2・3年生合同展覧会（仮）
1/13（金）～ 1/18（水）	日本画3年コース展
1/13（金）～ 1/18（水）	EENAC展（洋画）
2/21（火）～ 2/26（日）	第44回名古屋芸術大学卒業制作展

※会期・内容は変更になる場合がありますので、
事前にご確認ください。
〔入場無料〕どなたでもご覧いただけます。
お問い合わせ先／（0568）24-0325

Open/12：15～18：00（最終日は17：00まで）
日曜休館

表紙の写真

今号特集記事で2017年度芸術学部芸術学科に新設される『リベラルアーツコース』についてお話を伺った茂登山清文先生（左・デザイン学部教授）と、デザイン領域『文芸・ライティングコース』についてお話を伺った荻原雄一先生（右・デザイン学部教授）

「名古屋芸大グループ通信」ウェブサイト

発　　行：名古屋芸術大学
企画・編集：全学広報誌編集委員会
デザイン・協力：くまな工房一社
印　　刷：㈱クイックス
発　行　日：2016年10月31日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学　広報企画部
〒481-8502
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
電話　0568-24-0359
FAX　0568-24-0369
E-mail：grouptu-shin@nua.ac.jp

Japan University Accreditation Association
UNIVERSITY ACCREDITED
2011. 4～2018. 3

大学基準協会の認定評価を再取得しました

本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に適合と認定され、認定評価を再度取得しました。
認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。これにより、法令化されている「第三者による認定評価」にも合格したことになります。

※記事中のホームページアドレスは、掲載先の諸事情で移転や閉鎖されている場合がございます。あらかじめご了承ください。